

1. 古代交易システムの復元に向けて： 周辺から周辺へ、そして周辺から中央へ

嘉幡 茂*

要旨 本稿の目的は、古典期のメキシコ中央高原における交易システムに関して、一つの理論的枠組みを提案することにある。この時代、テオティワカンの影響力が汎メソアメリカ的であったため、経済システムに関する先行研究は、一般的にテオティワカン（中央）から周辺地域へと交易が展開されたとの観点に立っている。その結果、周辺地域の交易メカニズムについて、さらに、メキシコ中央高原全体の交易システムを分析対象とした研究は乏しい。本稿では、まず古代交易を扱ったこの時代の先行研究を見直しその問題点を把握する。中央に大きな影響を受ける周辺地域は、中央が形成する交易システムによって循環する富をどのように回収していたのか。さらに、テオティワカンの覇権は何故永続しなかったのか。これらの問題点を解明するためにも、テオティワカンを中心とした交易システムの復元研究以外の枠組みが必要である。本稿では、周辺は静的に中央と繋がっているのではなく、中央対周辺の枠組みを越え、新たに周辺対周辺という枠組みを設置する。そして、この中で、周辺は中央に依存しない周辺地域間の交易システムを確立させていたと主張する。「先資本主義世界システム」理論や独立商人について議論しながら、最終的に「多層的取引システム」という枠組みを提案する。

始めに

古代メソアメリカ地域における交易の研究では、これまでに考古学データや歴史民族資料からの援用を元に、様々なモデルの構築が実践され、また流通形態の解釈が行われてきた。例えば、黒曜石における流通変化を基に社会統合の変遷を通時的に示したもの（Pires-Ferreira 1976）、レンフリュー（Renfrew 1975）のモデルを援用し交易の形態が地政学的条件によって左右されるとする見解を示した論考（Zeitlin 1982）、価格変動の市場原理を基に市場（いちば）を考古遺物の出土状況の分析から定義付ける論考（Hirth 1998）、そして、古代社会における価格形成市場の発展を扱ったもの（Feinman et al. 1984）、遺跡における様々な製品や原材料の出土状況を分析し、物資の流通システムを復元しようと試みる論考（Manzanilla 1992）、経済的戦略がエージェンシーによって決定されるとする論考（Blanton et al. 1996）などが挙げられる。

しかしながら、テオティワカンや古典期のメキシコ中央高原における交易研究は遅れていると言っても過言ではない。本稿では、まず、テオティワカンの交易に関する先行研究を考察することで、この停滞の理由を示す。その後、「近代世界システム」論を批判・援用している「先資本主義世界システム」論、さらにこれを批判するSTEIN（Stein 1999a, 1999b, 2002）の知見を基に、新たな取引システム理論の構築に向かう。本稿で「多層的取引システム」という枠組みを提案する。さらに、この枠組みの中で、交易を促進させた因子として、政治統合組織に属さなかった商人の重要性を主張する。

テオティワカンの交易に関する先行研究とその問題点

テオティワカンの経済システムに関する先行研究は、国家主導の下で実施されていたとの考えで一致している（e.g., Millon 1981, 1992; Charlton 1978, 1984; Spence 1981, 1984, 1987a, 1987b; Spence et al. 1984; Hirth and Angulo 1981; Santley 1983, 1984, 1989; Santley et al. 1986; Santley and Alexander 1996; Santley and Arnold 2004; Drennan 1984a, 1984b; Kolb 1986, 1987; Manzanilla 1983, 1992, 1997a; Price

* 愛知県立大学多文化共生研究所客員共同研究員

1986; Carballo 2005, 2011)。これらの先行研究は、テオティワカンという国家が「再分配」システムまたは「市場交換」システムを基に、国家事業として資源を獲得し、製品を生産および流通させ富と権力を拡大していく理論的アプローチであると理解できる。この議論の方向性は、統治形態が共和制であれカリスマティックな王による施政であれ、テオティワカンが中央集権国家であったとの認識に関連している (e.g., Millon 1981, 1988, 1992: 382-401; Cowgill 1992; Manzanilla 1997a, 2001, 2006; Sugiyama 2005)。

しかしながら、テオティワカンの経済システムに「市場交換」が存在していたのか、またはテオティワカンの経済基盤にどれくらいの規模でこれが介入していたのかについて、意見はまとまっていない。ミジョン (Millon 1973: 53, 1981: 225-228, 1992: 376-382) はテオティワカンの発展要因の一つとして、特に「市場交換」から得られる税の獲得が、テオティワカンの歳入を大きく支えていたと考えている。資源の獲得、生産、流通システムは国家によって管理され、テオティワカンの都市に存在する市場 (いちば) や、遠距離交易を通して資源や商品が売買されたと考えている。上記のような国家主導の「市場交換」が存在していたという直接証拠は現在の所存在しない。しかし、テオティワカンにはメソアメリカ各地域から持ち込まれた様々な原材料 (貝、雲母、辰砂、ヒスイ、メノウ、フリント、赤鉄鉱、黄鉄鋼、トルコ石など) が多く認められている。そして、獲得されたこれら資源の大部分は、テオティワカンが直接管理する都市の工房で加工され、商品が各地域に流通していたと指摘している。しかしながら、テオティワカンの「市場交換」システムの中で、価格がどのようなメカニズムの基に決定されたのか、さらに、商人の存在を認めるものの、彼らが国家とどのような関係であったのか、個人的な営利目的で行動していたのかまで議論は及んでいない¹。遠・近距離交易によって獲得され、テオティワカンで出土する資源や財の存在は、単に移動を示しているに過ぎず、「市場交換」制度を通して獲得されたものなのかを判断することが困難な状況にある。

一方、マンサニージャ (Manzanilla 1997b: 121) は、「再分配」システムを基盤に、生産者間での物々交換、エリート階層間の長距離交易、飛び地領への奢侈品の直接供給、「再分配」システムを利用した多国籍商人などが並存していたと考えている。「再分配」システムが支配的であったことを立証するため、彼女は財の移動、集められた財を収める場所、それらを通して加工される製品、そしてこの流れを機能させる集権化制度との関係に注目する。彼女は、一連の財の獲得システムをテオティワカンの為政者に恩恵をもたらすシステムであるとの認識から議論を展開する。特に、誰によって製品や財が消費されるのか、つまり、テオティワカンの都市の中でも、どのセクターにそれらが最終的に届くのかを問題視している (Manzanilla 1983: 8)。分析の結果、各地域から得られる資源や財は、国家によってコントロールされた工房で生産され、他の財や製品が「城塞 (Ciudadela)」や「巨大複合施設 (Great Compound)」で管理・保管され、後に各セクターや関連地域に再分配されたと考えている。また、彼女は、テオティワカンの経済における「市場交換」システムの役割について否定的である (Manzanilla 1983, 1992, 1997a, 1997b)。個人的な動機や「市場交換」システムを介しての長距離交易が、テオティワカンの経済発展に貢献していたとの主張にも反論している。この議論では、オアハカやマヤ地域におけるパチューカ原産地 (Pachuca) の黒曜石の出土量や出土状況が中心議論になっている。以下では、この問題点を見直し、長距離交易の役割がどこにあったのか議論したい。

テオティワカンの長距離交易も、為政者たちにより一大国家事業として、政治・経済的にコントロールされていたと一般的に指摘されている (Millon 1973: 57; Spence 1981, 1984, 1987a, 1987b; Charlton and Spence 1982: 60-64; Santley 1983; Santley and Arnold 2004)。具体的には、テオティワカンは、この都市の近郊にあるオトゥンバ原産地 (Otumba) およびパチューカ原産地を支配下におき、獲得・生産・流通の一連の活動に介入していた。同時に、このような大規模に組織化された事業は、テオティワカンの経済的繁栄を担い (Charlton 1978, 1984; Santley 1983, 1984)、その富の蓄積が古典期 (紀元後 200~650 年) の間、メキシコ中央高原一帯に覇権をもたらす要因の一つであったと考えられている (Santley and Alexander 1996)。

この重要性からテオティワカンの黒曜石研究は活発である。特に、オトゥンバおよびパチューカ

¹ これに関して、ミジョンは、商人が国家によって組織されると同時に、個人的目的でも行動していたと指摘しているが、確認することが困難であると述べている (Millon 1981: 226; 1988: 126-127)。

の石材または製品を、どのようにテオティワカンへ、さらにオアハカ盆地やマヤ地域などの各地域へと流通させていったのかに関するルート、および交易形態の復元は、主要研究テーマの一つである (Charlton 1978, 1984; Santley 1983, 1984; Santley and Arnold 2004)。しかしながら、テオティワカンのこの大規模な活動を疑問視している研究者がいることも指摘しておかねばならない²。長距離交易に関して述べると、サントリー (Santley 1983, 1984) は、オアハカ盆地そしてカミナルフユやティカルなどを中心とするマヤ地域で出土するパチューカ原産地の黒曜石に注目し、テオティワカンが発達した交易システムを確立させていたと主張している。そして、この長距離交易は、テオティワカンに大きな利益をもたらしたと述べている。

しかしながら、近年、特にマヤ地域におけるサントリーの形式主義的な観点を批判する声があがっている。マンサニージャ (Manzanilla 1992) は、シドレイス (Sidrays 1976) が示したティカルで出土した黒曜石の内の僅か 1.6% がパチューカ原産地であるという事実、そしてマヤ地域の各遺跡で見られる黒曜石の出土パターンが、「市場交換」よりも「再分配」の形態に基づいているという主張を援用し、テオティワカンのマヤ地域における長距離交易が実益をもたらすものではないと指摘している。さらに、スペンス (Spence 1996) は、マンサニージャの主張を補強する解釈を提示している。彼の論考は、マヤ地域の各遺跡から出土するパチューカ原産地の黒曜石製品の出土状況に着眼したものである。そして、この遺物の大部分は宗教儀礼品や埋葬墓などからの副葬品であるとし、商業用としてよりもテオティワカンの為政者からの贈与品であると結論付けている (vid. Pendergast 1971; Moholy-Nagy 1999; Bove and Medrano 2003: 50-51)。このような現状を考慮し、先述のサントリーとアレクサンダー (Santley and Alexander 1996: 190-194) は、マヤ地域での黒曜石における長距離交易の存在を否定しないものの、これを介してのテオティワカンへの経済余剰価値は低かったと修正している。

これらの議論の論点は、長距離交易が国家によって管理されていたことでは一致しているが、その価値に経済的か政治・宗教的かで違いが見られることである。考古学データは、政治・宗教的価値を示しているように見える。しかしながら、これを確証するには、テオティワカンが支配していた、もう一方のオトゥンバ原産地の製品の出土量および出土状況を比較する必要がある。世界的にも珍しく緑色または黄金色のパチューカ黒曜石は、肉眼分析でも容易に他の原産地の黒曜石と峻別可能である。この容易さが、パチューカ黒曜石のみの議論に集中される傾向がある。オアハカおよびマヤ地域におけるテオティワカンで大量に利用されていたオトゥンバ黒曜石の出土状況および出土量を分析し、もし、出土状況がパチューカのものと同様であり、出土量も豊富であれば、これらの地域では経済的な目的で利用されていた可能性も示唆できるだろう。一方、テオティワカン盆地やその周辺地域であるメキシコ中央高原内では、特にパチューカ原産の黒曜石の出土は豊富であり (Hirth 2006: 289-290)、この流通がテオティワカンの発展に経済的に貢献していたとする先述の解釈は妥当であろう³。

² 特に、クラーク (Clark 1986) は、テオティワカンの都市内部における黒曜石研究の発展に大きく貢献したスペンス (Spence 1981, 1984, 1987a, 1987b) の分析方法および結果を批判している。スペンスの研究は、1960年代に実施されたテオティワカン・マッピング・プロジェクト (Teotihuacan Mapping Project) の表面採集から得たデータに、大部分基づいている。彼の一連の研究では、まずテオティワカンの都市内部における黒曜石の工房址を同定することから始まる。工房址の同定基準は、地表面で採集される黒曜石の散布率が、土器片と比較して高く、かつ、採集された黒曜石の半分 (場合により 1/3以上) が、残滓である地域を工房址であると定義している (Spence 1984: 88)。さらに、工房址と他の建造物との位置関係、および同定された工房址とその周辺から採集される石器組成を基に、工房址を3つのグループ「地方地区工房址 (Local Workshop Sites)」、「特定地区工房址 (Regional Workshop Sites)」、「行政地区工房址 (Precinct Workshop Sites)」に分類している (Spence 1981: 771-774, 1987a: 434-437)。この分類後、時期ごとにその絶対数を明示し、時期が下るに従い遺構数が増加することを指摘している。特に、「特定地区工房址」と「行政地区工房址」は、テオティワカンの為政者たちにとって、行政および宗教的に重要であった地区周辺に位置することから、国家の介入を受けた工房であると主張している。さらに、これらがサクアリ期 (紀元元年~150年) 以降に登場することから、この時期以降に専門従事者が出現し、テオティワカンが黒曜石生産活動を独占化していった証左であると指摘している (Spence 1984: 112-113)。

これに対して、クラークはスペンスの黒曜石の工房址の定義に問題があると指摘し、実数はスペンスが算出しているものより少なく、よって活動規模もより小さかったはずだと主張する。さらに、黒曜石製製品の消費は地域レベルであり、長距離交易用に使われた場合にでも製品は日常品としてではなく、エリートなどによって使用される奢侈品であり、この活動規模も小さかったと解釈している。

³ しかしながら、ドレンナンら (Drennan et al. 1990) はこの解釈に反論している。この論考では、まず、食料・生活必需品

これらの議論から、一つの政治圏内とその他の圏内とでは、黒曜石の商品価値が異なること、または少なくとも、他の価値が付加または転換されていたことが想定できる。少なくともテオティワカン都市内部では、原産地からの地理的な距離が近いこと、オトゥンバおよびパチューカの黒曜石の利用は、日常生活でも宗教儀礼の場でも認められている。

ところで、テオティワカンにおける経済システムの議論は、「市場交換」システムであれ「再分配」システムであれ、政治的にも経済的にも中心地であったテオティワカンを中心として、各地域を分析対象としている。このようなテオティワカンから周辺地域を考察する視点が主流である背景には、テオティワカンの文化的な影響力が広くメソアメリカ地域一帯に見られることと無関係ではない。その影響力は、土器様式や建築スタイル、そして石彫に表れるモチーフなどから証明されている (e.g., Coggins 1983, 1993; Culbert 1993; Marcus 2003; Moreselli 2004; Ortiz and Santley 1998; Stuart 2000)。

しかし、マーカス (Marcus 2003) が指摘しているように、考古学データに見られるテオティワカンの各地域における影響力が直接的なものなのか、それとも、カミナルフユ遺跡での事例のように、テオティワカンと明白な関係が指摘されている中継地を経た間接的なものなのか峻別する必要がある。また、テオティワカンの直接的な影響力があったと考えられる地域では、それが一過的なのか持続的なものなのかを考察しなければならない。これらの視点の欠如は、テオティワカンという古代国家がより強大であり、交易システムは常に中央から周辺へと向かう一方的な枠組みのみを強調する結果となる。

他方、メキシコ中央高原内におけるテオティワカンの支配が強い地域において、交易システムが画一的であったと考えることも危険である。テオティワカンが周辺地域を単なる領土拡大の目的を持って支配し、その交易圏に収めていたわけでもなく、また、その戦略が地域によって多様であったからである。その一例として、ハースとアングーロ (Hirth 1976, 1978; Hirth and Angulo 1981) の研究が挙げられる。先古典期後期と古典期間のモレーロス地域における、テオティワカンで最も重要であった交易用の土器 (薄手オレンジ色土器⁴や細粒石包含土器⁵) の分布比率、およびセトルメント・パターンの通時的変化を分析し、モレーロス州西域 (コアトラン地域) と東部 (リオ・アマツィナック地域) では、テオティワカンの統治形態が異なることを指摘している。モレーロス州東部では西部と比較し農耕に適した地域であり、テオティワカンにとってメリットがあったことから、先の交易用土器の出土量も多く、セトルメント・パターンにもラス・ピラス遺跡 (Las Pilas) を中心としたテオティワカンの意欲的な支配体制が確認されている (Martínez 1979)。経済面において、各周辺地域がテオティワカンの「市場交換」や「再分配」システムを基に支配または影響を受けていたと一般的に言われるが、その構造は複雑であったことが読み取れる。

冒頭で述べたように、古典期の経済システムに関する先行研究の大部分は、現在までテオティワカンを中心として放射状に復元されてきた。言わば、周辺地域は静的な存在として扱われてきた。これら経済システム復元の原点には、テオティワカンに富が向かうという構図が暗黙の内に存在し

を扱う場合に得られる実益を、人力による陸上輸送コストの面から考察し、輸出地から半径 275km 圏内に有効射程距離であると指摘する。その後、この圏内に位置するテワカン盆地で実施された発掘調査データを用い、黒曜石の出土量および出土状況を分析している。研究対象の遺跡からは、オトゥンバおよびパチューカ原産地の黒曜石も出土しているが、メキシコ盆地以外でのテオティワカンによるこの活動が、経済的な利益を目的としたものではなく、むしろテオティワカンの為政者たちにとって社会・政治的な宣伝効果を狙ったものであると結論付けている。筆者はこの結論に至るデータの解釈に疑問を持つだけでなく、テワカン盆地内のケーススタディーのみに基づき、メキシコ盆地以外におけるテオティワカンの黒曜石活動全体を解釈する帰納的推理に問題があると考えられる。

⁴ 薄手オレンジ色土器 (Thin Orange) の一大生産拠点は、プエブラ州南部のテペヒ・デ・ロドリゲス地域 (Tepexi de Rodríguez) にある (Rattray 1990)。テオティワカンのみならずメソアメリカ各地域で出土するこの土器の存在は、テオティワカンと政治・経済的な関係があった証拠を指摘する重要な遺物として認識されている (Rattray 2001: 310)。特にマヤ地域では、埋葬施設から副葬品として出土する事例が多く、この地域のエリートとテオティワカンの関係を構築するために用いられていたと考えられる。

⁵ ラトレイ (Rattray 2001: 340) は、この土器 (Granular) の出土は、テオティワカンへの貢納品を収める器として利用されたか、商業活動の結果による可能性を示唆している。同時に、モレーロス州東部の拠点として建設されたテオティワカンの衛星都市であるラス・ピラス遺跡からの出土も報告されている (Rattray 2001: 340)。生産地として、ショチパラ遺跡の近くに位置するモレーロス州とグレーロ州の州域が指摘されている (Rattray 2001:344-345)。

ている。テオティワカンの経済システムによって回収、または奪われた周辺地域の富は、一時テオティワカンの管理下におかれた後、どのように各地へ再分配されたのだろうか。また、再分配の恩恵に与からず、単に搾取されるシステムであったのなら、周辺地域はどのように富を蓄積していたのだろうか。このように、テオティワカン中心史観から離れ、それに包含されていた地域の動向に目を向けるとき、様々な疑問が惹起される。

包括的な交易論のための脱テオティワカン

メキシコ中央高原の古典期におけるより包括的な交易システム復元のためには、周辺からテオティワカンへと富が向かう、またはどのようにテオティワカンが周辺から富を獲得したかという従来の理論的アプローチではなく、周辺がその富や資源をどう獲得したのかという観点が必要である。そのことによって、周辺地域は静的な存在ではなくダイナミズムを持ち、現在解明されていないテオティワカンの衰退や続古典期 (Epiclassic ; 後 650~900/1000 年) における各地域の社会変動を引き起こした要因の考察が可能となる。

このような交易システムの復元に中央対周辺という枠組みを設定することは、ウォーラステイン (Wallerstein) の「近代世界システム」論を援用し修正を加えた「先資本主義世界システム」にも認められる (e.g., Peregrine 1996; Chase-Dunn and Hall 1991, 2000; Hall and Chase-Dunn 1996)。考古学研究のために議論が行われている「先資本主義世界システム」は、ウォーラステインの主張する「世界経済」モデル⁶を基にしているが、以下の4点で大きな違いがある⁷。世界システムの起源、世界システムの個体数、富の獲得方法、一つの世界システムを構成する地政学的機能の4点である。

「近代世界システム」は、現代のグローバルな世界システムの発生を、16世紀のヨーロッパで発生した資本主義経済に求め、現在はこのシステムが未だに拡大しているとの世界史観に立っている。一方、「先資本主義世界システム」論の構築を行う、ギルとフランク (Gill and Frank 1991) によると、このシステムの起源は紀元前2700年から2400年に始まる。さらに、この世界システムの地理的起源はヨーロッパではなく、数多くの世界システムが各地に存在しており、時を経て、これら複数の世界システムが融合または吸収しつつ、現代のグローバル化した世界システムへと向かうモデルを考案している (vid. Wilkinson 2000; Modelski 2000)。

このように、世界システムが古代社会における萌芽から現在の世界的拡大にまで、連続しているシステムとして理解可能であるのは、ウォーラステインの提示した「近代世界システム」が、富の獲得方法として資本主義経済のみを重要視しているのに対し、「先資本主義世界システム」では、ポランニー (Polanyi 1992) が提案した、「互酬」や「再分配」の形態を認めている所にある (Chase-Dunn and Hall 1997: 29-35)。生産様式を資本主義による形態のみにとらわれない視点が、16世紀に萌芽したとする「近代世界システム」と大きく異なる点であり、これに多様性を認めることで、「近代世界システム」理論を古代社会研究への援用を可能としている。

一方、「近代世界システム」が、世界システムの中に中央、半周辺、周辺という分業単位を設定しているのに対し、チェース=ダンとホールが提案する「先資本主義世界システム」では4つの異なる概念を採用している (Chase-Dunn and Hall 1997)。

1. 第一領域：生活必需品共有圏 (世界システムの最小単位)。
2. 第二領域：政治軍事的相互影響圏 (「近代世界システム」の政治統合単位である中央に相当)。
3. 第三領域：奢侈品交易圏 (複数の政治統合単位の集合領域であり、奢侈品や威信材の交易圏)。
4. 第四領域：情報ネットワーク圏 (「近代世界システム」の周辺に相当。世界システムを構成する限界領域であるが、第三領域を凌駕しない地域も存在する。情報の交換やイデオロギーの共有圏)。

チェース=ダンとホール (Chase-Dunn and Hall 2000: 91; Hall 2000) は、これら4つの領域における中央と周辺との社会・政治的關係は、距離に応じて中央の影響力が弱くなると述べ、「先資本主義世

⁶ 「世界経済」とはある一つの政治統合領域において一つの経済圏が存在するのではなく、複数の政治単位が地政学的な関係にある中央と半周辺と周辺地域に区分され、より大きな経済領域を形成することである。

⁷ 「近代世界システム」理論を古代社会に援用するには様々な点で問題がある。これに関しては、以下の論文が詳しい (e.g., Schneider 1991 [1977]; Stein 1999a, 1999b; Friedman and Rowlands 1978; Friedman 1982; Peregrine 1991, 2000; Schortman and Urban 1994; Chase-Dunn and Hall 1991, 1995, 1997, 2000; Hall and Chase-Dunn 1996; Kepecs and Kohl 2003)。

界システム」の拡大過程を以下のように説明する(図1)。幾つか存在する世界システムがより大きなものに発展する過程は、まず第三・四領域が他の世界システムの第三・四領域と接触することから始まる。その後、第二領域同士が融合、あるいは一方が他方を併呑し複数あった政治統合単位が一つになることもある。しかしながら、最小単位である第一領域は、輸送コストの問題から合体することはない。独立した各世界システムが接触し、融合・併呑が繰り返されるメカニズムは、中央から見てより社会・政治的影響力の乏しい領域にある。ここに周辺地域の大きな役割が隠されている。複数の世界システムが形成されている地域においてこれらが融合する際、周辺は動的な因子となる。新たな世界システム圏の中で、ある周辺は交易の拠点となり、中央に発展することも考えられる。

しかしながら、スタイン (Stein 2002: 904-905) は「全体像を把握するのに周辺の政治組織が重要であるとの近年の認識に関わらず、修正された世界システム論は、変化の原因が常に外部のどこかにあるとし、エージェンシーの役割や周辺の内的原動力を最小限に留めたままである」と批判している。換言すれば、チェース=ダンとホールの動態モデルはあまりにも共時的観点に立脚している。スタイン (Stein 1999a) は、考古学分野から複雑社会を理解する理論的枠組みとして、社会を一つの統合された総体と定義する文化生態学の観点から、社会はより異質な総体であり、内部では様々な目的に応じて競合と連結を繰り返す曖昧なネットワークであると捉えている。そして、政治・経済システムの解明には、考古学データを共時・通時的に分析し、それを包括できる理論的枠組みの建設が必要であると主張している。

周辺から周辺へ、そして周辺から中央

しかし、チェース=ダンとホールの政治統合単位を超えた経済システムの拡大という共時的マクロ理論と、スタインの社会における異質性が社会転換を発生させるという通時的観点を包括する理論構築は容易ではない。ここには2つの克服すべき問題点がある。①チェース=ダンとホールの理論的問題点は、世界システムの拡大が各第三・四領域の接触から開始され、ここに周辺の大きな役割が与えられているが、このシステムの求心力には、依然として中央の存在は無視できないということである。②もう一方の問題点は、チェース=ダンとホールそしてステインの両者の理論に内在する。それは、世界システム経済圏の拡大に対して、何故各第三・四領域が接触を開始するのかについての原動力が明白ではない。後者においても、社会内部変化のメカニズムは理解できても、外部との接触過程については説明可能とは言えない。今まで文化的接触のなかった地域同士が融合する原動力とは何なのかを考察すべきであろう。この節ではまず一つ目の問題点を克服する理論的枠組みを提案し、次に第二の問題点について論じる。

古典期のメキシコ中央高原では、テオティワカンの支配的な交易システムのみならず、周辺地域

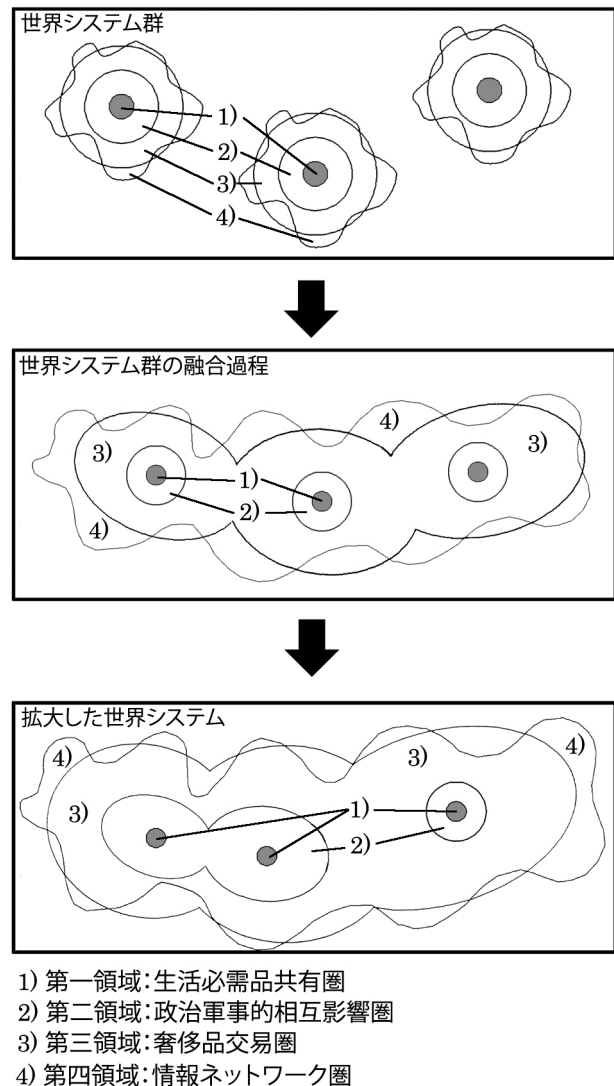


図1: 「先資本主義世界システム」の拡大模式図 (Chase-Dunn and Hall 1997: 60,62) より加筆・転用。

間において様々な物資が流通する多面的な交易システムが展開していた可能性が考えられる (Filini 2004: 109)。つまり、覇権を持っていたテオティワカンを中心とする世界システム論的な交易システム、そして、周辺と周辺とが行う複数のローカル交易システムの共存である (Kabata 2010)。「多層的な交易システム」という枠組みを提案する。一つの経済システムの確立に、必ずしも世界システム論的な中央の存在は必要としない。筆者は、テオティワカンとこの周辺に位置するトルーカ盆地で出土する搬入土器 (嘉幡 2008) と黒曜石 (Kabata 2009) を分析し、テオティワカンを介さない物資の移動が行われていたことを発見した。テオティワカンの経済システム以外に、周辺地域は独自の経済戦略を持ち、他の周辺地域との交易網を開拓・確立していた。

古典期のメキシコ中央高原におけるテオティワカンの覇権国家としての地位は、この影響圏内におけるテオティワカンの世界システム論的な交易システムが、他の交易システムよりも優勢であったことが大きな要因である。しかし、この「上位交易システム」の他に、先に述べた複数のローカル交易システム「下位交易システム」が存在している。チェース=ダンとホールが定義付ける各第三・四領域同士の接触のメカニズムは、中央を主体とする世界システム論内においてではなく、「下位交易システム」内の枠組みにおいて行われているのだ。

「多層的な交易システム」の枠組みには、チェース=ダンとホールが主張する「先資本主義世界システム」に、ステインの社会異質性という考えを取り入れていると言える。つまり、一つの世界システムを構成する各領域は、「様々な目的に応じて競合と連結を繰り返す曖昧なネットワーク」であり、そのためこのネットワーク (交易システム) も多様化する。

では、各周辺は何故「下位交易システム」内で接触を開始するのだろうか。その原動力は、周辺の社会的安定を確保しようとする動きにある。ストロスら (Stross et al. 1983: 335) は、「必需品における複数供給源の開拓は、単一供給源への依存よりも混乱や不当要求から守られる」と述べ、またファウラーら (Fowler et al. 1987: 159) も、「黒曜石供給源の多様化は、提携や交易ネットワークの脆弱性に対する有効な対処策だっただろう」との見解を示している。周辺地域にとって、テオティワカン「上位交易システム」のみの依存は必需品の供給確保の単一化を意味し、このシステムが崩壊または周辺への供給が何らかの政治・経済的制裁により断たれた場合、周辺地域の社会的安定は脅かされる⁸。供給を磐石にするため周辺は独自の戦略を用い、他の周辺との接触を開始するのだ (嘉幡 2008; Kabata 2009, 2010)。

商人という媒体

上記のように、各地域間の社会取引関係を「多層的な交易システム」観点から分析し、活発な交易活動が行われていた原動力を明確にすることで、テオティワカン中心史観から脱却し、共時的にも通時的にも包括的な取引論を展開することが可能となる。しかし、次の問題は、各地域間を円滑に繋ぎ、取引活動を直接実行する者とは、何者であったのかということである。そのキーワードとして、本稿ではトルテカやアステカの時代に見られるポチテカ (Pochteca; 商人) という職業の存在に注目する。彼らの起源は、少なくとも続古典期世界やそれ以前の古典期テオティワカンにまでさかのぼると考えられる (Diehl 1983: 113-117; Kolb 1986; Rattray 1988, 1998; Spence 1992: 79; Millon 1992: 376-382)。以下では、この商人が登場する社会背景を概観し、取引論研究には商人の設定が重要性であることを指摘する。

テオティワカンの崩壊に始まるメキシコ中央高原の続古典期は、新興都市が台頭する時期であり、これらの都市を中心として、古典期前期 (紀元後 200~450 年) にはなかった文化要素や新たな政治秩序が構築される社会変革期である。また、考古学データから、各地域間の文化・経済的な繋がりは活発に認められている。これは、人々の移動や取引が古典期前期に中心であった政治組織媒体を離れ、独立した仲介商人が登場する新たな取引システムの誕生を意味すると考えられる。そして、このシステムは後古典期前期 (後 900/1000~1200 年) に成熟し、メソアメリカ世界のほぼ全域を覆

⁸ 卑近な例として、日本のレアアース供給戦略が挙げられるだろう。2010年に起きた中国漁船衝突事故により、中国政府は対日レアアース輸出規制を行った。その結果、2011年には価格が高騰し、日本企業は新たな獲得戦略の考案に迫られた。脱中国依存である。カザフスタンやインドなどとの提携を開始する他、独自にレアアースのリサイクル技術革新や日本の南鳥島沖の海底における新資源地の確保が進められている。

うまでに発展していった。

従来、後古典期前期のメソアメリカ全域を包括する経済システムは、トゥーラを首都とする「トルテカ帝国」の政治的な発展と密接に関連付けられていた (Kirchhoff 1985 [1961]; Feldman 1974; Diehl 1993; Healan 1993)。トルテカ人が首都をトゥーラ・グランデ (Tula Grande) に建設し、メキシコ中央高原一帯やその近隣地域に強力な支配体制を敷いたとする解釈は、多くの民族誌を基に 1960 年代に提唱された。しかし、考古学データの蓄積や民族誌の再解釈の結果、トルテカの実像が見え始めてきている。各地域において出土するトルテカ様式の遺物は、当初トルテカ人が直接支配した結果であると解釈されてきたが、近年では交易による経済的そして宗教的な繋がりであると結論付けられるようになった (e.g., Nichols et al. 2002; García 2004)。そして、トルテカの支配域はそれほど広大ではなかったと指摘されている (Smith and Montiel 2001)。

続古典期から後古典期前期にかけて、複数の異なる生産地から様々な製品が広範に流通していた。その代表的なものが、プランベート土器⁹、ファイン・オレンジ土器¹⁰、そしてパチューカならびにウカレオ原産地 (Ucareo) の黒曜石である。これらの流通パターンから、上記の遠距離交易された製品は、中央と周辺間のネットワークではなく政治的境界を越えて流通されており、政治的枠組みを超えた「商業」というものがこの時代に発展した可能性がある。そして、製品を運ぶ商人により各地の交流が活発化したと推測できる (e.g., Hirth et al. 2006)。

ここで、政治的境界を超えた商品の流通が、先に述べた「先資本主義世界システム」や「多層的交易システム」の中で行われていた流通と、何が異なるのかを明白にしておく必要がある。何故なら、ここに商人を設定する重要性があるからである。「先資本主義世界システム」や「多層的交易システム」の枠組みの中では、いずれも中央または周辺の政治統合組織が主体となり、交易システムを構築してきた。しかし、古典期のメキシコ中央高原における交易研究の中で、政治統合組織を主体としない交易に関して、これまで議論の中心になることはなかった。その結果、冒頭で述べたように、経済・交易システムの復元は、常に国家の主導の基に行われているとの共通認識が出来上がっている。この商人を交易研究の議論に加えることで、政治統合組織に属さない者も経済・交易システムの確立に重要な役割があったとの観点が誕生し、より一層深い考察が可能となる。

アステカ時代における商人の役割についての研究は、民族誌やクロニスタによって記された記録文書 (クロニカ) の豊富さから、テオティワカン時代におけるこの研究と比較し進んでいる。その結果、コルブ (Kolb 1986) は、アステカ時代の経済システムから類推し、テオティワカン社会にもポチテカ集団が存在していた可能性を指摘している。そして、このポチテカ集団を 2 つに分類している。「民間商人」と「帝国商人」である。まず、テオティワカンの政治組織と遊離していた「民間商人」は、先古典期に確立していた古いルートを利用し、また新しいルートを開拓していった。一方の「帝国商人」は、テオティワカンの独占事業として展開されるパチューカ原産地の黒曜石を代表例とし、国家政治組織の一員として交易活動を行っていた (Kolb 1986: 186)。テオティワカンの段階的な領土発展と共に、この古代国家の為政者たちは、メキシコ盆地外で確立していた交易ルートを脅かす紛争や妨害を政治的重要問題であると認識し、「帝国商人」に物資の流通をのみならず、同時に武装集団として交易ルート確保の役割を負わせたと主張する。「民間商人」の一部は、このような状況の中、次第に国家と密接な関係を持ち「帝国商人」の特徴を持つ「戦士商人」に発展し、一方、「帝国商人」は当初からの役割通り、テオティワカン国家の代理人として、スパイや「戦士商人」として活動していたと指摘している (Kolb 1986: 191)。

彼の論考が薄手オレンジ色土器の分布に基づいた、テオティワカンを中心とした国家経済活動に

⁹ プランベート土器 (Plumbate) は鉛のような光沢のある土器で、メキシコ・グアテマラ国境沿近くの太平洋岸南部 (ソコヌスコ地方) において製作されていた (Lee 1978; Neff and Bishop 1988)。この中でもトヒル (Tohil) と呼ばれるタイプは、南はパナマやニカラグア、北はメキシコ・ナヤリ州まで各地で出土しており (Fahmel-Beyer 1988: 69-85)、ベカン (Becán)、ウシュマル (Uxmal)、チチェン・イツァ (Chichén Itzá)、などでは後 850/900 年から 1100 年の間に出現している (Cobos 2004: 522)。

¹⁰ ファイン・オレンジ土器 (Fine Orange) は、ベラクルス州南部とカンペチェ州の間のメキシコ湾岸低地で生産されていた (Rands et al. 1982)。バランカン (Balancán)、アルタール (Altar)、シルホ (Silho) と呼ばれるタイプが広く流通していた。バランカン・ファイン・オレンジ土器はウシュマルを始めとするユカタン北部やショチカルコ (Xochicalco; Sáenz 1967) そして恐らくカカシュトラ (Cacaxtla) などのメキシコ中央高原で出土している。

論点を置いているため、テオティワカンの政治組織と関連を持たなかった「民間商人」が、テオティワカンの崩壊後、独自にどのような経済活動を展開し、発展または衰退していたのかについての言及はない。しかしながら、本稿ではこの政治組織に組み込まれなかった「民間商人」こそが、続古典期と後古典期前期に発展した「商業」を促進させた商人の雛形であると考えられる。

おわりに

本稿は、古典期のメキシコ中央高原における経済・交易システムが、先行研究で述べられている見解と比較しより複雑であることを示し、包括的な交易理論構築のため幾つかの提案を行った。チェース=ダンとホール「先資本主義世界システム」論とステインの社会異質性観点を基に、「多層的交易システム」という枠組みを主張した。そして、コルブの考えやトルテカ期の経済システムを援用し、この中で「民間商人」集団というものが、政治統合組織とは独立した形で、時にはこれと共同し時には相反する目的で、その時代の経済・交易システムを確立する一員であったとの考えを示した。

この「民間商人」の設定は、筆者が実体主義よりも形式主義の観点¹¹から、交易システムの復元を試みる立場にあると理解されるかもしれない。しかしながら、経済人類学を生む大きな原動力となった、ポランニーの社会と経済における研究成果（Polanyi 1977, 1992）に賛同しており、筆者の考えはより実体主義的である。これはポランニーが主張する考えと矛盾していない。同様に、テオティワカンの経済形態が基本的に「再分配」に負っていたという解釈（Kelley 2002 [1979]; Manzanilla 1983, 1992, 1997b: 121）を否定してはいない。むしろ、テオティワカンでは、支配的な経済の形態が「再分配」であったと考える。ポランニーは、古代社会の経済における統合の諸形態について、「互酬」、「再分配」、「市場交換」の諸形態が必ずしも「発展の諸段階」を表すものではなく、幾つかの副次的な形態が、支配的な形態と並存しうると述べている（Polanyi 1977: 42-43; 1992: 91）。

古代経済・交易システムの中で、「互酬」と「再分配」と「市場交換」とがどのような関係にあり、また「市場交換」の役割がどのようなものであったのかについて考察することが、今後の課題である。

¹¹ ポランニーは、古代社会の経済システムは市場原理に基づく資本主義社会のものとは異なり、市場原理は、古代社会に支配的な形態ではなく、近代西洋においてのみ支配的に成立したと主張する。そして、経済という概念を、人間が生存のために必要な物質的要求を満たす上での制度という意味で利用する。そのような制度を彼は、「互酬」、「再分配」、「市場交換」の3形態で表現している。この考えを支持する者のことを実在主義者（実体主義者）と呼ぶ。一方、形式主義者とは、限られた手段で利益を拡大化させ合理的に行動する現代の市場原理が古代社会にも適用できるとの考えを持つ者のことである。

Abstract

1. Reconstructing Exchange Systems: Periphery vs. Periphery, and Periphery vs. Core

Shigeru KABATA

In this paper I will propose a theoretical framework about exchange systems in the Central Highlands of Mexico during the Classic period. Since the Teotihuacan political, economic, ideological influence was pan-Mesoamerica, previous works related to economic systems, in general, have been discussed from the perspective that the Teotihuacan state constructed it and the calculations of products and raw materials were supplied from and reached at this state. As a result, we do not have a lot of studies about the exchange mechanism in the peripheries, nor for proposing exchange systems that understand the whole Central Highlands. At first, I will reexamine previous studies dealing with exchange systems of this period, and consider the points still unclear: How did the peripheries, being so affected by the core Teotihuacan, recover wealth which was circulated by the Teotihuacan systems? Further, why did not the hegemony of Teotihuacan persist? In order to clarify these issues, it is necessary to reconstruct a theoretical framework, which is not centered on Teotihuacan. I will establish a new framework emphasizing relationships between peripheries and peripheries, in which these areas do not statically belong to the core. That is to say it considers the periphery beyond the core versus periphery framework. I will argue that the peripheries established interregional systems which did not depend on the core. To construct this framework, finally I will propose *Multilayer Exchange Systems*, discussing *Precapitalist World-Systems Theory* and independent merchants.

引用文献

- Blanton, Richard E., Gary M. Feinman, Stephen A. Kowalewski, and Peter N. Peregrine
1996 A Dual-Processual Theory for the Evolution of Mesoamerican Civilization. *Current Anthropology* 37(1): 1-14.
- Bove, Frederick J., and Sonia Medrano Busto
2003 Teotihuacan, Militarism, and pacific Guatemala. In *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction*, edited by Geoffrey E. Braswell, pp. 45-79. University of Texas Press, Austin.
- Carballo, David Manuel
2005 *State Political Authority and Obsidian Craft Production at the Moon Pyramid, Teotihuacan, Mexico*. Ph.D dissertation. University of California, Los Angeles.
2011 *Obsidian and the Teotihuacan State: Weaponry and Ritual Production at the Moon Pyramid*. University of Pittsburgh, Pittsburgh.
- Charlton, Thomas H.
1978 Teotihuacán, Tepeapulco, and Obsidian Exploitation. *Science* 200 (4347): 1227-1236.
1984 Production and Exchange: Variables in the Evolution of a Civilization. In *Trade and Exchange in Early Mesoamerica*, edited by Kenneth G. Hirth, pp.17-42. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Charlton, Thomas, and Michael Spence
1982 Obsidian Exploitation and Civilization in the Basin of Mexico. In *Mining and Mining Techniques in Ancient Mesoamerica*, edited by Phil C. Weigand and Gretchen Gwynne, pp. 7-86. State University of New York, New York.
- Chase-Dunn, Christopher K., and Thomas D. Hall
1991 Conceptualizing Core/Periphery Hierarchies for Comparative Study. In *Core/Periphery Relations in Precapitalist Worlds*, edited by Christopher Chase-Dunn and Thomas D. Hall, pp. 5-44. Westview Press, Boulder.
1995 Cross-World-System Comparison: Similarities and Differences. In *Civilizations and World Systems: Studying World-Historical Change*, edited by Stephen K. Sanderson, pp. 109-135. AltaMira Press,

- Walnut Creek.
- 1997 *Rise and Demise: Comparing World-Systems*. Westview Press, Boulder.
- 2000 Comparing World-systems to explain social evolution. In *World System History: The Social Science of Long-term Change*, edited by Robert A. Denemark, Jonathan Friedman, Barry K. Gills, and George Modelski, pp. 85-111. Routledge, London.
- Clark, John E.
- 1986 From Mountains to Molhills: A Critical Review of Teotihuacan's Obsidian Industry. In *Research in Economic Anthropology, Supplement No. 2: Economic Aspects of Prehispanic Highland Mexico*, edited by Barry L. Isaac, pp. 23-74. JAI Press, Greenwich.
- Cobos Palma, Rafael
- 2004 Chichén Itzá: Settlement and Hegemony during the Terminal Classic Period. In *The Terminal Classic in the Maya Lowlands: Collapse, Transition, and Transformation*, edited by Arthur A. Demarest, Prudence M. Rice and Don S. Rice, pp. 517-544. University Press of Colorado, Boulder.
- Coggins, Clemency
- 1983 An Instrument of Expansion: Monte Alban, Teotihuacan, and Tikal. In *Highland-Lowland Interaction in Mesoamerica: Interdisciplinary Approaches. A Conference at Dumbarton Oaks October 18th and 19th. 1980*, edited by Arther G. Muller, pp.49-68, Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington D.C.
- 1993 The Age of Teotihuacan and its Mission Abroad. In *Teotihuacan: Art from the City of the Gods*, edited by Kathleen Berrin and Esther Pasztory, pp. 140-155. Thames and Hudson, The Fines Arts Museums of San Francisco, San Francisco.
- Cowgill, George L.
- 1992 Social Differentiation at Teotihuacan. In *Mesoamerican Elites: An Archaeological Assessment*, edited by Diane Z. Chase and Arlen F. Chase, pp. 206-220. University of Oklahoma Press, Norman.
- Culbert, T. Patrick
- 1993 *The Ceramics of Tikal: Vessels from the Burials, Caches, and Problematical Deposits*. Tikal Report No. 25, part A. The University of Pennsylvania, Philadelphia.
- Diehl, Richard A.
- 1983 *Tula. The Toltec Capital of Ancient Mexico*. Thames and Hudson, London.
- 1993 The Toltec Horizon in Mesoamerica: New Perspectives on an Old Issue. In *Latin American Horizons*, edited by Don S. Rice, pp. 263-294. Dumbarton Oaks, Washington, D.C.
- Drennan, Robert D.
- 1984a Long-Distance Movement of Goods in the Mesoamerican Formative and Classic. *American Antiquity* 49(1): 52-65.
- 1984b Long-Distance Transportation Costs in Pre-Hispanic Mesoamerica. *American Anthropologist* 86(1): 105-112.
- Drennan, Robert D., Philip T. Fitzgibbons, and Heinz Dehn
- 1990 Imports and Exports in Classic Mesoamerican Political Economy: The Tehuacan Valley and The Teotihuacan Obsidian Industry. In *Research in Economic Anthropology, Vol.12*, edited by Barry L. Issac, pp.177-199. JAI Press INC., Greenwich.
- Fahmel Beyer, Bernd
- 1988 *Mesoamérica Tolteca: Sus Cerámicas de Comercio Principales*. INAH, México, D.F.
- Feinman, Gray M., Richard Blanton, and Stephen Kowalewski
- 1984 Market System Development in the Prehispanic Valley of Oaxaca, Mexico. In *Trade and Exchange in Early Mesoamerica*, edited by Kenneth. G. Hirth, pp. 157-178. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Feldman, Lawrence H.
- 1974 Tollan in Hidalgo: Native Accounts of Central Mexican Tolteca. In *Studies of Ancient Tollan: A Report of the University of Missouri. Tula Archaeological Project*, edited by Richard A. Diehl, pp. 130-149. University of Missouri, Missouri.
- Filini, Agapi
- 2004 *The Presence of Teotihuacan in the Cuitzeo Basin, Michoacán, Mexico: A World-System Perspective*. Archaeopress, Oxford.

- Fowler, William R., Jr., Jane H. Kelley, Frank Asaro, Helen V. Michel, and Fred H. Stross
 1987 The Chipped Stone Industry of Cihuatlan and Santa Maria, El Salvador, and Sources of Obsidian for Cihuatlan. *American Antiquity* 52(1): 151-160.
- Friedman, Jonathan
 1982 Catastrophe and Continuity in Social Evolution. In *Theory and Explanation in Archaeology*, edited by C. Renfrew, M. Rowlands and B. Segraves, pp. 175-196. Academic Press, New York.
- Friedman, Jonathan, and Michael J. Rowlands
 1977 Notes towards an Epigenetic Model of the Evolution of "Civilization" In *The Evolution of Social Systems*, edited by Jonathan Friedman and Michael J. Rowlands, pp. 201-276. Gerald Duckworth, London.
- García Chávez, Raúl
 2004 *De Tula a Azcapotzalco: Caracterización Arqueológica de los Altepelt de la Cuenca de México del Posclásico Temprano y Medio, a través del Estudio Cerámico Regional*. Ph.D dissertation. UNAM, México, D.F.
- Gills, Barry K, and Andre Gunder Frank
 1991 5000 Years World System History: The Cumulation of Accumulation. In *Core/Periphery Relations in Precapitalist Worlds*, edited by Christopher Chase-Dunn and Thomas D. Hall, pp. 67-112. Westview Press, Boulder.
- Hall, Thomas D.
 2000 Frontiers, Ethnogenesis, and World-Systems: Rethinking the Theories. In *A World-Systems Reader: New Perspectives on Gender, Urbanism, Cultures, Indigenous Peoples, and Ecology*, edited by Thomas D. Hall, pp. 237-270. Rowman & Littlefield, Lanham.
- Hall, Thomas D., and Christopher K. Chase-Dunn
 1996 Comparing World-Systems: Concepts and Hypotheses. In *Pre-Columbian World Systems. Monographs in World Archaeology No. 26*, edited by Peter N. Peregrine and Gray M. Feinman, pp. 11-25. Prehistory Press, Madison.
- Healan, Dan M.
 1993 Local versus Non-local Obsidian Exchange at Tula and its Implications for Post-formative Mesoamerica. *World Archaeology* 24(3): 449-466.
- Hirth, Kenneth G.
 1976 Teotihuacan Influence in the Eastern Valley of Morelos. In *Las Fronteras de Mesoamérica*, Tomo 2, pp. 33-43. Sociedad Mexicana de Antropología, México, D.F.
 1978 Teotihuacán Regional Population Administration in Eastern Morelos. *World Archaeology* 9(3): 320-333.
 1998 A New Way to Identify Marketplace Exchange in the Archaeological Record. *Current Anthropology* 39(4): 451-476.
 2006 Modeling a Prehistoric Economy: Mesoamerican Obsidian Systems and Craft Production at Xochicalco. In *Obsidian Craft Production in Ancient Central Mexico. Archaeological Research at Xochicalco*, edited by Kenneth G. Hirth, pp. 287-300. University of Utah Press, Salt Lake City.
- Hirth, Kenneth G., Gregory Bondar, Michael D. Glascock, A. J. Vonarx, and Thierry Daubenspeck
 2006 Supply-Side Economics: An Analysis of Obsidian Procurement and the Organization of Workshop Provisioning. In *Obsidian Craft Production in Ancient Central Mexico. Archaeological Research at Xochicalco*, edited by Kenneth G. Hirth, pp. 115-136. University of Utah Press, Salt Lake City.
- Hirth, Kenneth G., and Jorge Angulo Villaseñor
 1981 Early State Expansion in Central Mexico: Teotihuacan. *Journal of Field Archaeology* 8(2): 135-150.
- 嘉幡 茂
 2008 「トルーカ盆地のダイナミズム—メキシコ州、サンタ・クルス・アティサパン遺跡出土のデータを基に—」『古代アメリカ』第11号、1-26頁、古代アメリカ学会。
- Kabata, Shigeru
 2009 La industria de obsidiana y su abastecimiento a Santa Cruz Atizapán. In *La Gente de la Ciénaga en Tiempos Antiguos: La Historia de Santa Cruz Atizapán*, edited by Yoko Sugiura Yamamoto, pp. 243-260. UNAM, México, D.F.
 2010 *La dinámica regional entre el valle de Toluca y las áreas circundantes: Intercambio antes y después*

- de la caída de Teotihuacan*. Ph.D dissertation. UNAM, México, D.F.
- Kelley, John Charles
 2002 [1979] An Archaeological Reappraisal of the Tula-Toltec Concept, as Viewed from Northwestern Mesoamerica. In *Homenaje al Dr. John Charles Kelley*, edited by María Teresa Cabrero, Jaime Litvak and Meter Jiménez, pp.99-121. UNAM, México, D.F.
- Kepecs, Susan, and Philip Kohl
 2003 Conceptualizing Macroregional Interaction: World-Systems Theory and the Archaeological Record. In *The Postclassic Mesoamerican World*, edited by Michael E. Smith and Francis F. Berdan, pp. 14-20. University of Utah Press, Utah.
- Kirchhoff, Paul
 1985 [1961] El imperio tolteca y su caída. In *Mesoamérica y el Centro de México: Una Antología*, edited by Jesús Monjarás-Ruiz, Rosa Brambila and Emma Pérez-Rocha, pp. 249-272. INAH, México, D.F.
- Kolb, Charles
 1986 Commercial Aspects of Classic Teotihuacan Period “Thin Orange Wares”. In *Research in Economic Anthropology, Supplement No. 2: Economic Aspects of Prehispanic Highland Mexico*, edited by Barry L. Isaac, pp. 155-205. JAI Press, Greenwich.
 1987 *Marine Shell Trade and Classic Teotihuacan, Mexico*. Bar International Series 364. British Archaeological Reports, Oxford.
- Lee Jr., Thomas A.
 1978 The Origins and Development of Plumbate Pottery. *Revista Mexicana de Antropología* 24(3): 287-300.
- Manzanilla, Linda R.
 1983 La redistribución como proceso de centralización de la producción y circulación de bienes: Análisis de dos casos. *Boletín de Antropología Americana* 7: 5-18.
 1992 The Economic Organization of the Teotihuacan Priesthood: Hypotheses and Considerations. In *Art, Ideology, and the City of Teotihuacan: A Symposium at Dumbarton Oaks 8th and 9th October 1988*, edited by Janet Catherine Berlo, pp.321-338, Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington D.C.
 1997a Early Urban Societies: Challenges and Perspectives. In *Emergence and Change in Early Urban Societies*, edited by Linda R. Manzanilla, pp. 3-39. Plenum Press, New York.
 1997b Teotihuacan: Urban Archetype, Cosmic Model. In *Emergence and Change in Early Urban Societies*, edited by Linda R. Manzanilla, pp. 109-131. Plenum Press, New York.
 2001 Gobierno corporativo en Teotihuacan: Una revisión del concepto “Palacio” aplicado a la gran urbe prehispánica. *Anales de Antropología XXXV*: 157-190
 2006 Estados corporativos arcaicos. Organizaciones de excepción en escenarios excluyentes. *Cuicuilco* 13(36): 13-45.
- Marcus, Joyce
 2003 The Maya and Teotihuacan. In *The Maya and Teotihuacan: Reinterpreting Early Classic Interaction*, edited by Geoffrey E. Braswell, pp. 337-356. University of Texas Press, Austin.
- Martínez Donjuan, Guadalupe
 1979 *Las Pilas, Morelos*. Colección Científica Núm. 75. INAH, México, D.F.
- Millon, René
 1973 *Urbanization at Teotihuacán, México, Vol. 1, part 1: The Teotihuacan Map: Text*. University of Texas Press, Austin.
 1981 Teotihuacan: City, State, and Civilization. In *Supplement to the Handbook of Middle American Indians, Vol. 1: Archaeology*, edited by Victoria Reifler Bricker and Jeremy A. Sabloff, pp. 198-243. University of Texas Press, Austin.
 1988 The Last Years of Teotihuacan Dominance. In *The Collapse of Ancient States and Civilizations*, edited by Norman Yoffee and George L. Cowgill, pp. 102-164. University of Arizona Press, Tucson.
 1992 Teotihuacan Studies: From 1950 to 1990 and Beyond. In *Art, Ideology, and the City of Teotihuacan: A Symposium at Dumbarton Oaks 8th and 9th October 1988*, edited by Janet Catherine Berlo, pp.

339-429, Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington D.C.

Modelski, George

2000 World System Evolution. In *World System History: The Social Science of Long-term Change*, edited by Robert A. Denemark, Jonathan Friedman, Barry K. Gills and George Modelski, pp. 24-53. Routledge, London.

Moholy-Nagy, Hattula

1999 Mexican Obsidian at Tikal, Guatemala. *Latin American Antiquity* 10(3): 300-313.

Morselli B., Simonetta

2004 *El Tocado de los Gobernantes en las Representaciones Escultóricas de Tikal: Propuesta para una Lectura Iconográfica*. Master thesis. UNAM, México, D. F.

Neff, Hector, and Ronald L. Bishop

1988 Plumbate Origins and Development. *American Antiquity* 53(3): 505-522.

Nichols, Deborah L., Elizabeth M. Brumfiel, Hector Neff, Mary Hodge, Thomas H. Charlton, and Michael D. Glascock

2002 Neutrons, Markets, Cities, and Empires: A 1000-Year Perspective on Ceramic Production and Distribution in the Postclassic Basin of Mexico. *Journal of Anthropological Archaeology* 21: 25-82.

Ortiz, Ponciano, and Robert Santley

1998 Matacapan: Un ejemplo de enclave teotihuacano en la Costa del Golfo. In *Los Ritmos de Cambio en Teotihuacán: Reflexiones y Discusiones de su Cronología*, coordinated by Rosa Brambila and Rubén Cabrera, Colección Científica Núm. 366, pp. 377-460. INAH, México, D.F.

Pendergast, David M.

1971 Evidence of Early Teotihuacan-Lowland Maya Contact at Altun Ha. *American Antiquity* 36(4): 455-460.

Peregrine, Peter

1991 Prehistoric Chiefdoms on the American Midcontinent: A World-System Based on Prestige Goods. In *Core/Periphery Relations in Precapitalist Worlds*, edited by Christopher Chase-Dunn and Thomas D. Hall, pp. 193-211. Westview Press, Boulder.

1996 Introduction: Works-Systems Theory and Archaeology. In *Pre-Columbian World Systems. Monographs in World Archaeology No. 26*, edited by Peter N. Peregrine and Gray M. Feinman, pp. 1-10. Prehistory Press, Madison.

2000 Archaeology and World-Systems Theory. In *A World-Systems Reader: New Perspectives on Gender, Urbanism, Cultures, Indigenous Peoples, and Ecology*, edited by Thomas D. Hall, pp. 59-68. Rowman & Littlefield, Lanham.

Pires-Ferreira, Jane W.

1976 Obsidian Exchange in Formative Mesoamerica. In *The Early Mesoamerican Village*, edited by Kent V. Flannery, pp. 292-306. Academic Press, New York.

Polanyi, Karl

1977 *The Livelihood of Man*. Academic Press, New York.

1992 *La Gran Transformación: Los Orígenes Políticos y Económicos de Nuestro Tiempo*. Fondo de Cultura Económica, México, D.F. (translated by 1957 *The Great Transformation: The Political and Economic Origins of Our Time*. Beacon Press, Boston).

Price, Barbara J.

1986 Teotihuacan as World-System: Concerning the Applicability of Wallerstein's Model. In *Origen y Formación del Estado en Mesoamérica*, edited by Andrés Medina, Alfredo López Agustín and Mari Carmen Serra, pp. 169-194. UNAM, Mexico, D.F.

Rands, Robert L., Ronald L. Bishop, and Jeremy A. Sabloff

1982 Maya Fine Paste Ceramics: An Archaeological Perspective. In *Excavations at Seibal, Department of Peten, Guatemala. Analysis of Fine Paste Ceramics*, edited by Jeremy A. Sabloff, pp. 315-343. Harvard University, Cambridge.

- Rattray, Evelyn C.
- 1988 Nuevas interpretaciones en torno al barrio de los Comerciantes. *Anales de Antropología* XXV: 165-180.
- 1990 New Findings on the Origins of Thin Orange Ceramics. *Ancient Mesoamerica* 1: 181-195.
- 1998 Rutas de intercambio en el Periodo Clásico en Mesoamérica. In *Rutas de Intercambio en Mesoamérica: III Coloquio Pedro Bosch-Gimpera*, edited by Evelyn Childs Rattray, pp. 77-100. UNAM, México, D.F.
- 2001 *Teotihuacan: Cerámica, Cronología y Tendencias Culturales*. INAH, México, D.F.
- Renfrew, Colin
- 1975 Trade as Action at a Distance: Questions of Integration and Communication. In *Ancient Civilization and Trade*, edited by Jeremy A. Sabloff and C. C. Lamberg-Karlovsky, pp. 3-59. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Sáenz, César A.
- 1967 *Nuevas Exploraciones y Hallazgos en Xochicalco. 1965-1966. Informe 13*. INAH, México, D.F.
- Santley, Robert S.
- 1983 Obsidian Trade and Teotihuacan Influence in Mesoamerica. In *Highland-Lowland Interaction in Mesoamerica: Interdisciplinary Approaches*, edited by Arther G. Miller, pp. 69-124. Dumbarton Oaks, Washington D.C.
- 1984 Obsidian Exchange, Economic Stratification, and the Evolution of Complex Society in the Basin of Mexico. In *Trade and Exchange in Early Mesoamerica*, edited by Kenneth G. Hirth, pp. 43-86. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- 1989 Obsidian Working, Long-Distance Exchange, and the Teotihuacan Presence on the South Gulf Coast. In *Mesoamerica after the Decline of Teotihuacan, A.D. 700-900*, edited by Richard A. Diehl and Janet Catherine Berlo, pp. 131-151. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.
- Santley, Robert S., Janet M. Kerley, and Ronald R. Knnebone
- 1986 Obsidian Working, Long-Distance Exchange, and the Politico-Economic Central Mexico. In *Research in Economic Anthropology, Supplement No. 2: Economic Aspects of Prehispanic Highland Mexico*, edited by Barry Isaac, pp. 101-132. JAI Press, London.
- Santley, Robert S., and Philip J. Arnold III
- 2004 El intercambio de la obsidiana y la influencia teotihuacana en la Sierra de los Tuxtlas. In *La Costa del Golfo en Tiempos Teotihuacanos: Propuestas y Perspectivas. Memoria de la Segunda Mesa Redonda de Teotihuacan*, edited by María Elena Ruiz Gallut and Arturo Pascual Soto, pp. 115-138. INAH, México, D.F.
- Santley, Robert S., and Rani T. Alexander
- 1996 Teotihuacan and Middle Classic Mesoamerica: A Precolumbian World System?. In *Arqueología Mesoamericana: Homenaje a William T. Sanders*, edited by Alba Guadalupe Mastache, Jeffrey R. Parsons, Robert S. Santley and Mari Carmen Serra Puche, pp. 173-194. UNAM, México, D.F.
- Schneider, Jane
- 1991 [1977] Was There a Precapitalist World-System? In *Core/Periphery Relations in Precapitalist Worlds*, edited by Christopher Chase-Dunn and Thomas D. Hall, pp. 45-66. Westview Press, Boulder.
- Schortman, Edward M., and Patricia A. Urban
- 1994 Living on the Edge: Core/Periphery Relations in Ancient Southeastern Mesoamerica. *Current Anthropology* 35(4): 401-430.
- Sidrays, Raymond V.
- 1976 Classic Maya Obsidian Trade. *American Antiquity* 41(4): 449-464.
- Smith, Michael E., and Lisa Montiel
- 2001 The Archaeological Study of Empires and Imperialism in Pre-Hispanic Central Mexico. *Journal of Anthropological Archaeology* 20(3): 245-284.
- Spence, Michael W.

- 1981 Obsidian Production and the State in Teotihuacan. *American Antiquity* 46(4): 769-788.
- 1984 Craft Production and Polity in Early Teotihuacan. In *Trade and Exchange in Early Mesoamerica*, edited by Kenneth G. Hirth, pp. 87-114. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- 1987a The Scale and Structure of Obsidian Production in Teotihuacan. In *Teotihuacan: Nuevos datos, Nuevas Síntesis, Nuevos Problemas*, edited by Emily McClung de Tapia and Evelyn Childs Rattray, pp. 429-450. UNAM, México, D.F.
- 1987b La evolución del sistema de producción de obsidiana en Teotihuacan. In *El Auge y la Caída del Clásico en el México Central*, edited by Joseph B. Mountjoy and Donald L. Brockington, pp. 87-128. UNAM, México, D.F.
- 1992 Tlailotlacan, a Zapotec Enclave in Teotihuacan. In *Art, Ideology, and the City of Teotihuacan: A Symposium at Dumbarton Oaks 8th and 9th October 1988*, edited by Janet Catherine Berlo, pp. 59-88. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington D.C.
- 1996 Commodity or Gift: Teotihuacan Obsidian in the Maya Region. *Latin American Antiquity* 7(1): 21-39.
- Spence, Michael W., J. Kimberlin, and G. Harbottle
- 1984 State-Controlled Procurement and the Obsidian Workshops of Teotihuacan, Mexico. In *Prehistoric Quarries and Lithic Production*, edited by Jonathon E. Ericson and Barbara A. Purdy, pp. 97-105. Cambridge University Press, Cambridge.
- Stein, Gil J.
- 1999a *Rethinking World-Systems: Diasporas, Colonies, and Interaction in Uruk Mesopotamia*. University of Arizona Press, Tucson.
- 1999b Rethinking World-Systems: Power, Distance, and Diasporas in the Dynamics of Interregional Interaction. In *World-Systems Theory in Practice: Leadership, Production, and Exchange*, edited by P. Nick Kardulias, pp. 153-177. Rowman & Littlefield Publishers, Lanham.
- 2002 From Passive Periphery to Active Agents: Emerging Perspectives in the Archaeology of Interregional Interaction. *American Anthropologist* 104(3): 903-916.
- Stross, Fred H., Payson Sheets, Frank Asaro, and Helen V. Michel
- 1983 Precise Characterization of Guatemala Obsidian Sources, and Source determination of Artifacts from Quiriguá. *American Antiquity* 48(2): 323-347.
- Stuart, David
- 2000 The Arrival of Strangers: Teotihuacan and Tollan in Classic Maya History. In *Mesoamerica Classic Heritage: From Teotihuacan to the Aztecs*, edited by David Carrasco, Lindsay Jones and Scott Sessions, pp. 465-513. University Press of Colorado, Boulder.
- Sugiyama, Saburo
- 2005 *Human Sacrifice, Militarism, and Rulership: Materialization of State Ideology at the Feathered Serpent Pyramid, Teotihuacan*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Wilkinson, David
- 2000 Civilizations as Worlds Systems. In *World System History: The Social Science of Long-term Change*, edited by Robert A. Denemark, Jonathan Friedman, Barry K. Gills and George Modelski, pp. 54-84. Routledge, London.
- Zeitlin, Robert N.
- 1982 Toward a More Comprehensive Model of Interregional Commodity Distribution: Political Variables and Prehistoric Obsidian Procurement in Mesoamerica. *American Antiquity* 47(2): 260-275.